

## 大阪大学山岳会の概要

設 立	1949年(昭和24年)6月
役 員	会 長 大野義照
	副 会 長 山田靖則(事務局)、石原敏雄
	常務理事 奥山宏臣
	理 事 大宅幸夫、井上太一、明神 知、科野昌蔵、榊原 淳、森藤正人
	監 事 黒岩芳夫
	評 議 員 岡田博司、野田憲一郎、廣瀬貞雄、高田邦雄、横尾秀次郎、出雲路敬孝
所 在 地	〒562-0031 大阪府箕面市小野原東4-19-45 大野方
加盟団体	日本山岳会(JAC)
歴代会長	初 代 篠田 軍治(工学部):JAC会員、第1~3次P-29遠征隊隊長、故人
	第2代 水野祥太郎(医学部1930卒):JAC会員、RCCII会員、第4次P-29遠征隊隊長、故人
	第3代 徳永 篤司(医学部1951卒):JAC会員、JACマナスル遠征隊隊員、故人
	第4代 大野 義照(工学部1967卒):大阪大学名誉教授、JAC会員、第4次P-29遠征隊隊員
活動概要	<p>当会は1946年6月に旧制浪速高等学校山岳部を母体として、大阪大学全学部的なものとして発足しました。しかし、当会のルーツは大阪大学の前身である大阪帝国大学に併合された、旧大阪医科大学や旧大阪工業大学にまで遡ることがわかっています。これらの大学の山岳部は1930年ごろには活発な活動を行っていたことが、関西学生山岳連盟の記録などからうかがえます。当会発足以前の旧大阪帝大、旧大阪大山岳部の方々は特別会員として、まだ多在籍しておられます。なお、当会の学生会員は大阪大学山岳部として大阪大学の認定団体として活動しております。</p> <p>当会は1946年の設立以降、後立山連峰から黒部川下の廊下に活動の場を広げ、その後の黒部川上の廊下の積雪期完全廻行まで、「後立山から黒部へ」が会設立以来の活動のシンボルとなっていました。その間、京都大学学士山岳会や日本山岳会の海外遠征に触発され、当会の目も海外に向けられました。日本山岳会第三次マナスル遠征隊への故徳永会員の参加をその端緒として、当時の故篠田会長の牽引のもと、マナスルとヒマラルチュリの間位置するP29を当会のヒマラヤ遠征の対象とし、1961年から1970年にわたり、4回の登山隊を派遣して、隊員とシェルパの登頂後の墜落死という悲劇がありながらも、遂にその頂上を極めることができました。その後も、カラコルムのアプサラサス峰やサンゲマルマール峰など若手の会員を中心とした海外登山活動を進めてまいりました。この間の活動は「後立山からヒマラヤへ」というタイトルで50年史にまとめております。</p> <p>しかし、最近の3Kを嫌う風潮からか、学生会員(山岳部員)の急激な減少が顕著となり、結果として当会の活動の縮小になっており、山岳部員の獲得、育成が大きな課題となりました。これに対しては、2012年春に大学の協力のもと、阪大吹田体育館内にクライミングウォールを設置し、山岳部員の獲得、育成の手立てとした結果、年々山岳部員も増加し、現在40人を数えるほどになり、新しい活動が出来る体制が整いつつあり、山行とクライミングの両方の活動を行っています。しかし、縮小期のクライミング主体となった山行活動の断絶をいかに回復するかが新たな課題となっています。</p> <p>また、2007年に大阪大学外国語学部となった旧大阪外国語大学の大阪外国語大学山岳会とは友好団体として山行や懇親会など交流を深めております。</p>
当会への連絡は下記にお願いいたします。	
事 務 局	〒560-0003 大阪府豊中市東豊中町1-16-6 山田方 E-mail infooumc@oumc.sakura.ne.jp